

高校生との連携と空きスペースの活用

空き店舗が増え活気のなくなっていた
商店街が高校生とのコラボで
元気を取り戻す。

加盟店減少と高齢化、
一体感が希薄になった商店街

♪蒲田ひろくも 自慢じゃないが
富士を見ながら 鐘をきく

これは昭和30年頃、穂曾谷秀雄作詞、
蒲田音楽学園先代園長、山田壮三作曲
によって作られた「大城音頭」の一節。
大城通り商店会では毎年、夏の盆踊り
で踊られ親しまれている曲である。

大城通り商店会は蒲田駅西口からほ
ど近い西蒲田5丁目から池上通りへと
至る商店街。今では路上からの眺望は
望めないものの、歌詞にあるとおり南
西方向に富士を仰ぎ、朝夕二回、時を
伝える池上本門寺の梵鐘になる。発足
は昭和3年でその歴史は80余年に及
ぶ。南北の全長は約900m、西蒲田

一丁目、二・三丁目、四丁目、女塚と
4つの町会を束ねる広域にわたる商店
街でもある。近隣には女塚神社や妙成
寺、欣浄寺など寺社仏閣が多く、地上
20階建て日本工学院専門学校のタワ
ー校舎もあり、古い町並みと新しい町並
みが交錯しているのも特徴である。

長年にわたり多様な業種が集まった
地域密着型の商店街として機能してき
たが、近年は蒲田駅ビルのリニューア
ルや周辺商業施設の拡充、さらに会員
の高齢化などもあり、物販店を中心に
閉店する店舗が目立つようになってき
た。現状、会員数は約140であるが、
実際に営業しているのは半数ほど。残
りは廃業しているものの会費は払い続
ける「つきあい加入」である。当然、
活動の担い手も少なくなり、櫛の歯が
かけたように空き店舗が点在する通り

となり、商店街としての一体感が希薄
になってしまった。

交通量が多く
集客イベントができない

問題は空き店舗の増加だけではな
い。大城通りは道幅の狭い一車線の一
方通行。前記の通り蒲田駅西口から池
上方面とを結んでいるため、抜け道と
して利用され交通量が多い。そのため、
歩行者は道の両側の歩道を歩くことに
なり、商店街の各店舗をはしごするよ
うにぶらぶらと散歩するという雰囲気
になりづらいのである。また主婦など
が日常的に買い物で利用することの多
い自転車も通行しづらいだけでなく、
止めるスペースもないため商店街離れ
の遠因になってしまった。

集客のために何かイベントを仕掛け
ようにも、交通量が多いため道路の使
用許可がなかなか下りず、結局、商店
街としての独自のイベントは夏の感謝
祭、年末売り出しなどの恒例行事に限
られた。そうこうしているうちに顧客



通りの入り口にかかるアーチ

離れは進み、空き店舗は増えていく。
いかにして「負のスパイラル」から抜
け出すか。大城通りの実情に合った、
これまでになくような活性化への取り
組みが求められていた。

見えてきた突破口は
空き店舗の活用

実情に合った活性化の取り組みと
いっても、そう簡単にアイデアが沸い
てくるものではない。そこで大城通り

高校生とのコラボを 活性化につなげる

その後も「商店街パワーアップ作戦」を利用して商店街活性化について検討していくうちに思いがけない出会いがあった。都立芝商業高等学校が公社を通じて授業に協力してくれる製パン店を探していた。同校では授業の一環として模擬会社を運営しており、その活動としてパンの商品企画からコスト管理、学校での販売までを生徒自身が行うことにより生きた商業を学ぶという計画を練っていた。しかし日常業務だけで手一杯で協力できるという製パン店は見つからない。その話を聞いた星野谷会長は、商店街に加盟し、自らが運営している障がい者就労支援施設「樹林館」での協力を申し出た。

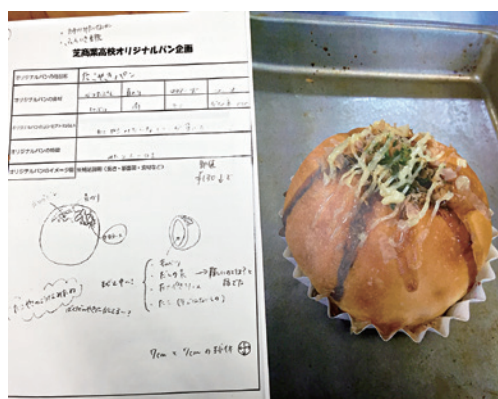
商店会の星野谷清孝会長は平成23年度から進め！若手商人育成事業のセミナーを受講。公社職員と専門家スタッフによるアドバイス、現地支援を受けるとともに、他の商店街と情報交換しながら打開策を探すことにした。

受講するなかで星野谷会長のアンテナに引っかかったのが空き店舗の活用だった。新規出店を希望する人に試験店舗として空き店舗を貸し出したり、地域住民が集まる開放スペースにするといったアイデアが出たが、いずれも商店街の事業として行うには費用の問題をはじめハードルが高かった。しかし空き店舗を活用するという商店街活性化の方向性がようやく見えてきた。

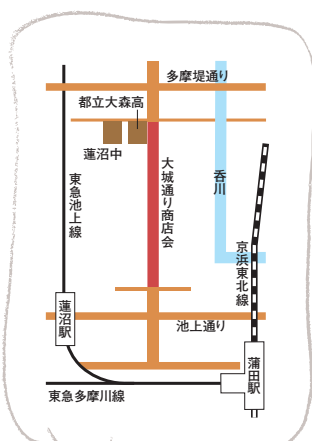
次の課題は人の集まる スペースづくり

この取り組みによりオムライスパン、たこ焼きパンなど若者らしいアイデアのユニークな商品ができた。同時に商店街・商業高校等連携事業を利用して接客の専門家に授業を行ってもらい、売り方を学ぶ機会も設けた。生徒の熱心な取り組み姿勢も相まって、学校でのパンの評判も非常に良く、昼休みになると同時に生徒が行列をつくり毎回完売になるほど。この成果をふまえ、都立芝商と「樹林館」のコラボを商店街の活性化につなげられないか。星野谷会長は考えるようになった。

そこで現在、星野谷会長はコミュニティスペース運営の応援をしている。「樹林館」も入る複合施設「ふれあいはすぬま」にある「社会福祉法人大田幸陽会さわやかワークセンター」(障



都立芝商業高等学校とのコラボで生まれた たこ焼きパン



廃校施設にオープンしたコミュニティスペース「茶和や」(さわや)

がい者支援施設)が自前の施設の食堂スペースで「お休み処 茶和や(さわや)」の運営を始めた。現在は飲み物やお菓子のサービスが中心だが、今後はセミナー会場や食事スペースの提供も考えている。空き店舗を利用してお休み処を設けている商店街もある。商店会のバックアップを受けながらお子様連れやお年寄りなど地元の方々コミュニティスペースとして活用してもらいたい。そこから商店街が活性化していけば、と星野谷会長は考えている。

- 商店街名 大城通り商店会
- 会員数 約 140 (会員店舗数 70)
- 連絡先 大田区西蒲田 3-9-6
- 電話 03-3753-2313
- URL <http://www.oshiro-shop.com/index.html>
- 活用施策 商店街パワーアップ作戦
商店街・商業高校等連携事業



会長 星野谷清孝

当商店会では活性化のヒントを探しながら様々な取り組みを行っています。しかし個店は自分の生活で精いっぱい、協力して一緒にものごとをやるのは難しいという現実があります。様々な苦労がありましたが、都立高校や社会福祉法人、障がい者支援施設などと一緒に活動することで、地域の人を巻き込んだ新しい活性化に繋がっていかばと思います。